

鵬翔流吟友会 理念

千詩万詠して心身を磨き

古今の風雅に親しみ遊びては

花鳥風月を友とし天恵に謝す

先人古哲の精神に学んでは

礼と節とを以って人間陶冶に努める

自ら心魂洗い浄めて

真善美全き世界を求むるは

是、愛と誠の鵬翔会なり

鵬翔流吟友会 会詩

提携ていけい 師友しゆう 鷗盟おうめい を 結びむす

偏ひとえに 詩歌しにかを 探さがつて 妙聲みょうせいを 琢みがく

風雅ふうがの 精神せいしん 承継しょうけいを 誓ちかい

更さらに 期きす 吟道ぎんどう 百年ひゃくねんの 誠まこと



「」挨拶

鵬翔流吟友会
会長 梶田鵬翔

殊の外暑かった今年の夏も漸く過ぎ、爽やかな芸術の秋を迎えました。

漢詩にも和歌にも「秋」を詠んだものは数多くあり、四季の中でも「秋」は特別に心動かされる時節ということがわかります。中国を代表する李白や杜甫、白居易の詩にも秋の風物である「月」や「紅葉」「金木犀」「菊の花」等、沢山の題材を詩に表して、読む人の心を穏やかに豊かにしてくれそうです。

李白の静夜思の月も、峨眉山月の月も、唐の時代からずつと現在に至るまで、変わることなく同じ月が私達を照らしてくれています。いつか李白の見た月を私も中国で見たいと、漢詩のふるさと中国を訪ねたのは、三年前になります。上海海洋大学での吟詠文化交流会の開催が一月遅れていたら、中国武漢市で第一例目の新型コロナウイルス感染者が報告された頃と重なって、どうなっていたのだろうと思うと、一つの夢を叶えて頂けた事を、今更ながらとても有難く思っています。

さて、時は移り日本の平安、鎌倉時代を描いた今年の大河ドラマでは、「鎌倉殿の十三人」が放映されています。なぜか源頼朝よりも源義経にスポットを当ててみたくなり「悲運の英雄源義経」と題して、義経が乳飲み子の赤ん坊だった頃から、五条の大橋で弁慶と出会い、兄の頼朝に追われて落ち延びて行く安宅の関までを構成吟にしたためました。一生懸命吟じてみたいと思います。また、本日は公私共に大変ご多忙な中を顧問の先生を初め、範吟範舞を賜りますご来賓の先生方には、心から深く感謝申し上げます。午後からの風雅なひと時を、楽しくお過ごし頂けると嬉しく存じます。本日は誠に有難うございました。

大会係り役員

大会 会長 飯田 長
 大会 副会長 梶田 長
 大会 副会長 山田 長
 大会 実行委員長 川添 長
 大会 実行副委員長 笹岡 長
 大会 事務局 川添 局長

会場準備 ○

笹岡 蒼翔
 横山 熙光
 大野 正翔
 柏井 啓嗣
 西村 雄紫
 川添 雄
 川添 蒼翔
 笹岡 蒼翔
 川添 雄

菅岡 蒼翔
 横山 熙光
 大野 正翔
 柏井 啓嗣
 西村 雄紫
 川添 雄
 (屏風運搬)

受付案内 ○

中西 鵬鷲
 山村 彩光
 山村 彩光
 川村 櫻翔

感染症対策 ○

山村 彩光
 公文 松翔

会費会計 ○

飯田 鵬祥

接待 ○

宝蔵 瑤光
 宝蔵 正
 森田 蓮光
 戸田 燁紫

司会 ○

飯田 鵬祥
 松木 鴻光
 松代 伶翔
 戸田 燁紫

会場進行 ○

笹岡 蒼翔
 大野 正翔
 横山 熙光
 柏井 啓嗣

音響 ○

山中 清翔
 鎌田 耀紫

記録広報 ○

川添 鵬雄
 戸田 燁紫

(五) (四) (三) (二) (一)

「風雅を楽しむ秋の集い」 式典

開式挨拶

鵬翔流吟友会理念朗読

先導

川添 鵬雄

鵬翔流吟友会会詩合吟

先導

飯田 鵬祥

会長挨拶

来賓挨拶

六六庵吟詠会 高知県本部 本部長

梶田 鵬翔

高知県県議会議員・鵬翔流吟友会顧問

上本 竹永

高知市市会議員・鵬翔流吟友会顧問

桑名 龍吾

鵬翔流吟友会後援会 会長

竹村 邦夫

近森 憲一

（敬称略）

第一部 合 吟

1 立山を望む

作者 国分青厓

男 性

2 秋 思

作者 許 渾

女 性

3 菊 花

作者 直江兼統

明德義塾高等学校

第二部 会員吟詠(その一)

4 応制天の橋立

作者 釈 希世

高須教室 柏井啓嗣

5 酒 に 對 す

作者 白 居易

宇佐教室 西村雄紫

6 山間の秋夜

作者 真 山 民

高須教室 山村彩光

7 静 夜 思

作者 李 白

高須教室 横山熙光

8 早に白帝城を發す

作者 李 白

高須教室 鎌田耀紫

9 廬山の瀑布を望む

作者 李 白

東雲教室 松木鴻光

10 涼 州 詞

作者 王 翰

栈橋教室 公文松翔

第三部

来賓吟詠・会長吟詠

11 寶 船

作 者

藤野君山

高知市市会議員
鵬翔流吟友会顧問

竹村邦夫

12 寶 船

作 者

藤野君山

高知県県議会議員
鵬翔流吟友会顧問

桑名龍吾

13 胡隠君を尋ぬ

作 者

高 啓

鵬翔流吟友会会長

梶田鵬翔

第四部

会員吟詠（その二）

14 常盤孤を抱くの図に題す

作 者

梁川星巖

長 浜 教 室

森田蓮光

15 漢詩一題

作 者

棧 橋 教 室

寺岡颯翔

16 時に憩う

作 者

良 寛

南 国 教 室

西山博貴

17 月夜三又口に舟を泛ぶ

作 者

高野蘭亭

東 雲 教 室

宝蔵 正

18 満州を想う

作 者

大野正翔

宇 佐 教 室

大野正翔

19 落 花

作 者

徳富蘇峰

長 浜 教 室

川村櫻翔

第六部

構成吟「悲運の英雄 源義経」

26 常盤孤を抱くの因に題す

作者 梁川星巖

蒔絵台教室

松代伶翔

27 鞍馬の牛若

作者 大茂木慶山

高須教室

山中清翔

28 義経五条大橋にて弁慶に遇う

作者 小泉慶治

高須教室

川添鵬雄

29 青葉の笛

作者 松口月城

東雲教室

宝蔵瑠光
戸田燁紫

30 壇の浦を過ぐ

作者 村上佛山

高須教室

飯田鵬祥

31 和歌 吉野山

作者 静御前

宇佐教室

中西鵬鶯

32 安宅の関

作者 網谷一才

南国教室

笹岡蒼翔

第七部

明德義塾留学生による「新たななる挑戦」

33 歌謡吟詠と「華道吟」

弘道館賛歌

作者 丘灯至夫
徳川景山

明德義塾高等学
日本クラブ詩吟部 校

第八部

歌謡吟詠（その二）

34 勝海舟

作詞 野村耕三

高須教室

横山熙光

35 霧が城物語

作詞 丘灯至夫

高須教室

山村彩光

36 北上夜曲

作詞 菊池規

(舞)

土佐麗陽会
蒔絵台教室

松代伶俐
大崎麗蒼

37 雨

作詞 岩佐多歌子

宇佐教室

中西鵬鷲

38 人生城

作詞 石本美由紀

高須教室

川添鵬雄

39 雲よ

作詞 横井弘

高須教室

飯田鵬祥

第九部

来賓花舞台

「吟と舞」

(順不同・敬称略)

40 汪倫に贈る

作者 李白

黒潮吟社

内田紫紅

41 古城

作詞 高野掬太郎 (舞)

若柳流

若柳吉み月

42 竹

作詞 野村耕三 (舞)

若柳流

若柳吉重蔵

43 恋唄綴り

作詞

荒木とよひさ
(舞)

高須教室
花柳流

山中清翔
中岡あき

44 佐渡の恋歌

作詞

日柳燕石
(舞)

土佐麗陽会

中平麗煌

45 武神

作詞

岩佐多歌子
(舞)

土佐麗陽会

中城麗抄

46 霊山

作詞

三野瑞枝
(舞)

土佐麗陽会

大崎麗蒼

47 流転山頭火

作詞

岩田道之輔

六六庵吟詠会
高知県本部
本部長

上本竹永

第十部

会長・役員吟詠

48 夜墨水を下る

作者

服部南郭

高須教室

山中清翔

49 剣門道中にて微雨に遇う

作者

陸游

高須教室

川添鵬雄

50 秋桜

作者

飯田鵬祥

高須教室

飯田鵬祥

51 我が道

作詞

仁木葉子

鵬翔流吟友会会長

梶田鵬翔

52 三百六十五歩のマーチ

閉会の挨拶

山中清翔